

【 研究ノート・資料 】

## 大学生の家庭科衣生活領域の技術習得度と ファストファッション消費行動の関係

筒井 和美<sup>1</sup> 横川 萌衣<sup>2</sup> 青山 耀蘭<sup>2</sup> 伊藤 実萌<sup>2</sup> 原田 悦子<sup>1</sup> 加藤 祥子<sup>1</sup><sup>1</sup>愛知教育大学 家政教育講座、<sup>2</sup>愛知教育大学 教育学部家庭選修

### 要約

大学生 334 人を対象にファストファッション消費行動についてアンケート調査を行った。衣生活領域に関する技術習得度を問うと、既習事項である汚れた衣服の手入れや生地素材による使い分けができない者が多かった。技術習得度が低い者は衣服やサステイナブルファッションへの関心が有意に低く、破れた衣服を修理できずに、燃えるゴミとして処分する傾向が見られた。このような背景が、安価なファストファッションの消費につながっていると予想された。家庭科の学びを振り返り、技能技術の定着や自らの衣生活を見直す機会が必要である。

### キーワード

家庭科、衣生活、大学生、技術習得、ファストファッション

### 1 緒言

アパレル業界では、流行を取り入れた衣服が低価格で大量生産されるファストファッションが若者に支持されている。多くの店舗で商品が短期間に販売され、追加生産を行わない売り切りによって低価格が実現している。1990 年頃から衣料品の輸入単価の低下にともない国内のアパレル供給量が増加する一方で、国内市場は減少した<sup>1)</sup>。

環境省の「令和 2 年度ファッションと環境に関する調査」<sup>2)</sup> では、衣類の国内新規供給量（計 81.9 万トン）のうち 9 割が事業所や家庭から使用後に手放されている。ファッションの流行展開が早く、着用されなくなったファストファッションの衣服が短期間で廃棄されていることがうかがえる。現在、リサイクル法では容器包装、小型家電、食品、建設、自動車に対する規制はあるが<sup>3)</sup>、繊維製品に関するものはない。

木下 (2018)<sup>4)</sup> は大学生 61 人を対象にアンケート調査を行い、被服に関する嗜好性や経済性が優先され、衣服の着心地、耐久性、手入れ等が後退していると報告している。また、前田・野口 (2014)<sup>5)</sup> は衣類購入時、男女ともに大学生はデザイン、価格、サイズを重視しており、素材や洗濯方法、原産国に関心のある者は少ないと述べている。しかし、このような若者の衣服消費行動にこれまでの家庭科衣生活領域の技術習得度がどのような影響を与えているかは明らかになっていない。若者の衣生活を充実させるためには、家庭科の授業ではどのような項目に重点を置けばいいのか見直すことが重要である。

本研究では、大学生を対象に衣服やファッションへの関心、衣服の購入・処分の状況などについて Web アンケ

ート調査を行い、衣生活に対する意識とファストファッション消費動向に及ぼす家庭科衣生活領域の技術習得度の影響について考察した。技術習得度の違いによって、被服行動における衣服選択がどのように異なるか、また、消費行動において環境配慮がどのように変化するかを分析し、本成果を衣生活領域の学びのあり方について検討するための基礎知見にしたい。

### 2 調査方法

#### 2.1 対象者と家庭科衣生活領域の技術習得度

愛知教育大学教育学部の大学 2~4 年生及び大学院生の計 334 人（男性 145 人、女性 185 人、性別に対して無回答 4 人）に対して、2022 年 4 月 12 日~4 月 18 日の期間に Google フォームを用いた Web アンケート調査を行った。有効回答数は 333 人（男性 145 人、女性 184 人、無回答 4 人）である。予め、衣生活領域に関する 9 項目の技術習得度（①手縫いで製作できる、②ミシンで製作できる、③アイロンがけができる、④洗濯物を畳むことができる、⑤ボタン付けができる、⑥破れた衣服の補修ができる、⑦汚れた衣服を手入れすることができる、⑧生地素材の違いによる衣服の使い分けができる、⑨季節に合った衣服を選択することができる）について 4 段階（4 点：上手にできる、3 点：できる、2 点：あまりできない、1 点：全くできない）で回答してもらい、一人あたりの全ての習得度を合計し、36 点満点中の 28 点以上の 88 人（男性 13 人、女性 74 人、無回答 1 人、平均年齢 19.9 歳）を高群、それ以外の 245 人（男性 132 人、女性 110 人、無回答 3 人、平均年齢 19.8 歳）を低群とそれぞれ定義した。高群には家庭専修が 10 人（4.1%）、低群には 45 人（51.1%）

それぞれ含まれた。また、一人暮らしは高群 52 人 (21.2%)、低群 10 人 (11.1%) である。

## 2.2 アンケート調査

### 衣服やファッション、ファストファッション等への関心

衣服やファッション、ファストファッション、サステイナブルファッションへの関心について、それぞれ 4 段階で回答してもらった (4 点: とても関心がある、3 点: 少し関心がある、2 点: あまり関心がない、1 点: 全く関心がない)。ただし、1 点についてはファストファッションやサステイナブルファッションという用語の意味を知らない、或いはその用語を聞いたことがないという回答も含んだ。前述の技術習得度別に単純集計し、平均点±標準偏差を求め、有意差検定を Wilcoxon の符号順位和検定により行った。

### 衣服の購入状況と処分状況

大学生の衣服行動を把握するため、購入場所や購入条件について質問した。また、2022 年 1 月～3 月における衣服の購入状況について、トップス (Tシャツ、パーカー、ワンピース等) やボトムス (ズボン、スカート、サロペット等) の購入枚数、購入金額の最高価格帯や最低価格帯をそれぞれ回答してもらった。

また、大学生のファストファッション消費行動について理解するため、不必要な衣服の購入経験や着用頻度、衣服の処分理由・方法 (複数回答) についても問うた。購入経験は 4 段階 (4 点: 全くない、3 点: あまりない、2 点: たまにある、1 点: よくある) で回答してもらい、衣生活領域の技術習得度別に整理した。また、衣服の処分理由や方法について技術習得度別に集計し、有意差検定を Wilcoxon の符号順位和検定により行った。

## 2.3 倫理的配慮

本研究の調査目的を対象者全員へ文書や口頭で説明した。その際、愛知教育大学研究倫理規定に従い、プライバシーの保護、いかなる不利益を被ることはないこと、また得られたデータは ID 番号をつけて匿名化して研究以外に使用しないこと等を伝え、承諾を得た者に限り回答してもらった。

## 3 結果と考察

### 3.1 家庭科衣生活領域に関する技術習得度

家庭科衣生活領域に関する 9 項目の技術習得度合計得点の人数分布を図 1 に示した。36 点満点中、高群 (n=88) には計 28 点の者が 25 人と最も多く、次に計 30 点が 23 人となり、最高点には計 36 点が 5 人存在した (図 1)。一方、低群は計 24 点が最も多く、最低点は①～⑨の全てについて 1 点 (全くできない) を選んだ者が 5 人であった。教員養成大学で学ぶ大学生において家庭科衣生活領域の技術習得に差が見られた。

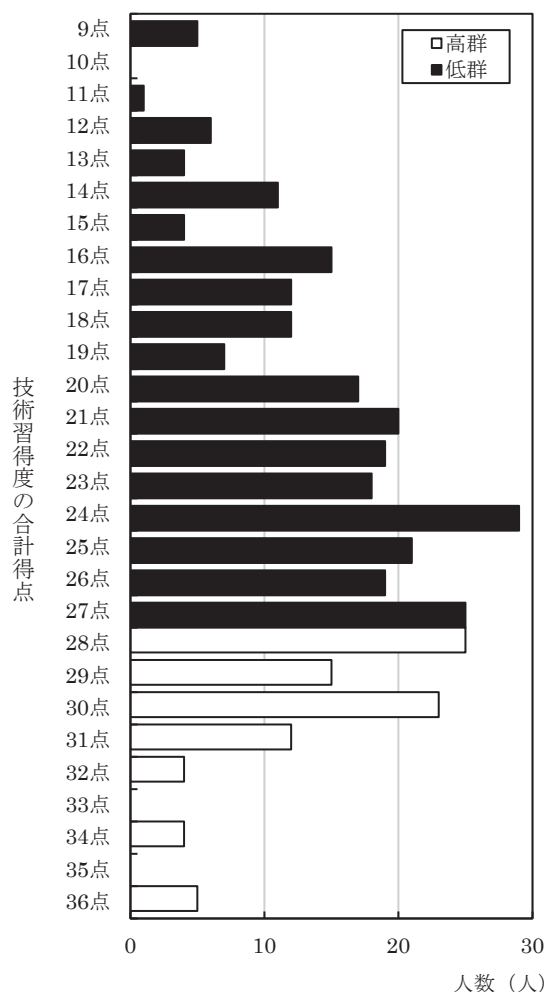


図 1 大学生の家庭科衣生活領域に関する技術習得度合計得点の人数分布

次に、技術習得度の得点割合を図 2 に、その平均を表 1 にそれぞれ整理した。低群 (n=245) の全ての平均技術習得度は高群 (n=88) に比べて有意に ( $p < 0.01$ ) 低く、①手縫いによる製作、②ミシンによる製作、⑥破れた衣服の補修、⑦汚れた衣服の手入れ、⑧生地素材による使い分けについて 2 点 (あまりできない) 及び 1 点 (全くできない) を選択した者が約 70% を占めた (図 2b、表 1)。特に、⑦汚れた衣服の手入れ、⑧生地素材による使い分けは、ミシンやアイロン等の道具を所有せずとも、日々の暮らしの衣習慣として、これまでの家庭科の学びを実践できる機会であるが、既習事項が定着していなかった。年代を問わず、女性は自分や他人のファッションへの関心が高いことから<sup>6)</sup>、高群に女性の割合が多くなったと予想された。

速水・黒光 (2014)<sup>7)</sup> は家庭での実践状況について大学生 213 人にアンケート調査し、ボタン付けやスナップ付け、まつり縫いについて、女性は自己評価「できる」と回答した者が男性よりも有意に ( $p < 0.01$ ) 多いと報告し、

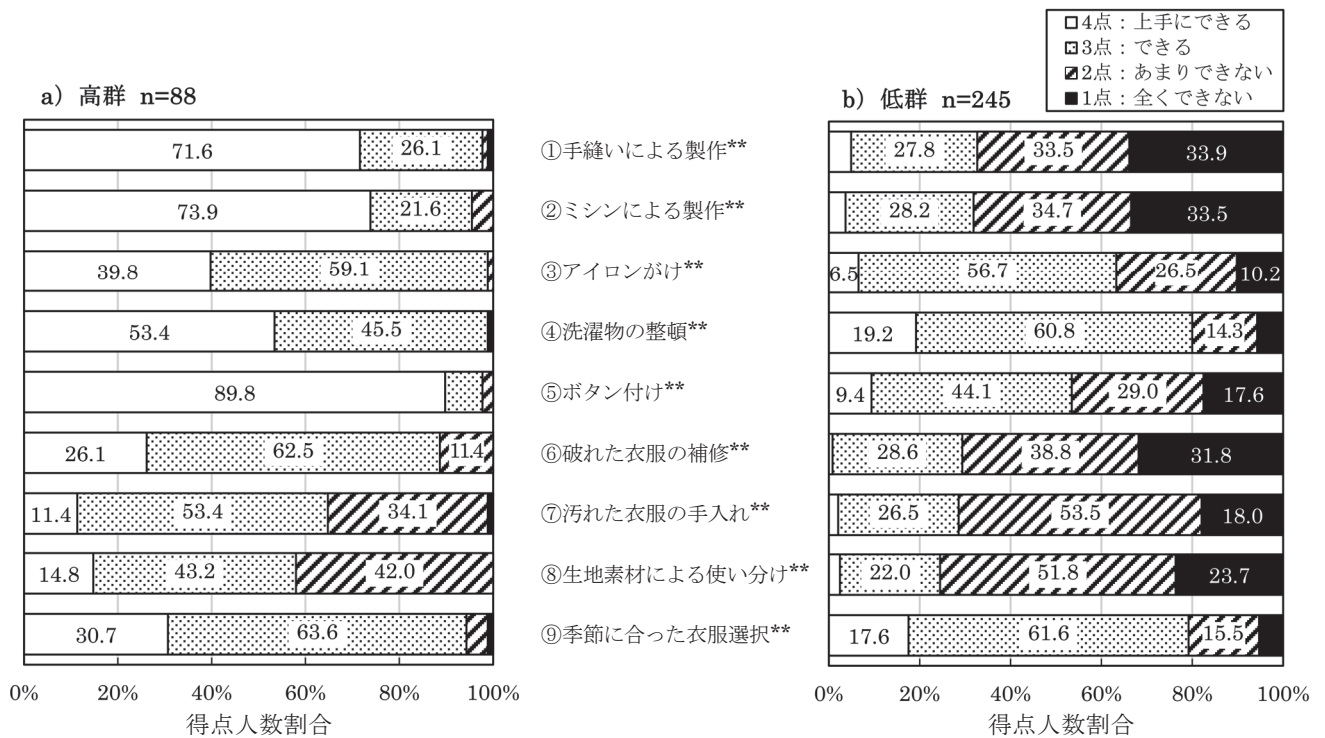


図2 大学生の家庭科衣生活領域に関する技術習得度の得点人数割合 (\*\* :  $p < 0.01$ )

表1 大学生の家庭科衣生活領域の平均技術習得度

単位：点

	高群 n=88	低群 n=245
①手縫いによる製作**	3.68	2.04
②ミシンによる製作**	3.69	2.02
③アイロンがけ**	3.39	2.60
④洗濯物の整頓**	3.51	2.93
⑤ボタン付け**	3.88	2.45
⑥破れた衣服の補修**	3.15	1.98
⑦汚れた衣服の手入れ**	2.75	2.13
⑧生地素材による使い分け**	2.73	2.03
⑨季節に合った衣服選択**	3.24	2.91

\*\* :  $p < 0.01$

苦手意識を持たせない指導が必要であると述べている。また、柏崎ら (2009) <sup>8)</sup> の被服製作用語に関する知識定着に関する調査では、ぬいとり、しるしつけ、布の裁ち方などの知識について大学生は中学3年生よりも低い定着であったが、裁縫経験のある者は日常生活の中で実践することで縫製技能が維持されていると述べられている。大学の調理実習において、繰り返しの調理によってごはん、茶碗蒸し、いかと里芋の煮物について出来映えの改善、調理時間の短縮が見られたという報告もある <sup>9) 10)</sup>。このように既習された家庭科の技能技術を活用していく機会を多く設け、実践力を養っていくことが重要である。

### 3.2 衣服やファッション、ファストファッション等への関心

衣服やファッション、ファストファッション、サステイナブルファッションへの関心について表2に示した。衣服やファッションへの関心について4点(とてもある)又は3点(少しある)を選んだ者が、高群では計79人(89.8%)、低群では計181人(73.9%)となり、衣生活領域の技術習得度に関わらず、いずれも高かった(表2a)。しかし、低群(n=245)ではファストファッション、サステイナブルファッションへの関心について1点(全くない)を選んだ者がそれぞれ134人(54.7%)、160人(65.3%)であり、いずれも平均点が高群より有意( $p < 0.01$ )に低かった(表2b、表2c)。低群では、衣生活領域における技術習得の不足がファッション全般への関心を低下させている可能性があることが示唆された。

筒井ら(2021) <sup>11)</sup> は、高校家庭基礎を履修すると、男子生徒(n=50)の被服や保育への関心が有意( $p < 0.05$ )に増加したと報告しており、家庭科の授業内容を充実させ、日常の衣生活に活用して生活を豊かにする必要がある。

### 3.3 衣服の購入状況と処分状況

#### 衣服の購入場所と購入条件

衣服の購入場所と購入条件について表3に整理した。技術習得度に関わらず、本調査の大学生の購入場所はショッピングモールが60%と最も多く、次にインターネット通販となった(表3a)。購入条件は、高群ならびに低群ともに第1位「デザイン」、第2位「価格」となった(表3b)。

表2 大学生の衣服やファッション、ファストファッション、サステナブルファッションへの関心

単位：人 (%)

a 衣服やファッションへの関心	4点：とてもある	3点：少しある	2点：あまりない	1点：全くない
高群 n=88	43 (48.9)	36 (40.9)	8 (9.1)	1 (1.1)
低群 n=245	62 (25.3)	119 (48.6)	49 (20.0)	15 (6.1)
b ファストファッションへの関心	4点：とてもある	3点：少しある	2点：あまりない	1点：全くない
高群 n=88	37 (42.0)	19 (21.6)	8 (9.1)	24 (27.3)
低群 n=245	49 (20.0)	46 (18.8)	16 (6.5)	134 (54.7)
c サステナブルファッションへの関心	4点：とてもある	3点：少しある	2点：あまりない	1点：全くない
高群 n=88	7 (8.0)	30 (34.1)	15 (17.0)	36 (40.9)
低群 n=245	7 (2.9)	38 (15.5)	40 (16.3)	160 (65.3)

	高群 n=88	低群 n=245
a 衣服やファッションへの関心**	3.38点	2.93点
b ファストファッションへの関心**	2.88点	1.96点
c サステナブルファッションへの関心**	2.09点	1.56点

\*\* :  $p < 0.01$

表3 大学生の衣服の購入場所と購入条件

単位：%

a 購入場所	百貨店	ショッピングモール	スーパーマーケット	アウトレット	古着屋	フリーマーケット	フリマアプリ	インターネット通販	その他
高群	2.3	61.4	0.0	6.8	4.5	0.0	0.0	23.9	1.1
低群	3.3	58.4	0.8	13.9	4.5	0.0	0.0	18.4	0.8

b 購入条件		価格	色	サイズ	デザイン	ブランド	試着有無	素材	機能性	肌触り	取扱表示	原産国	購入方法	購入場所	その他
1位	高群	19.3	1.1	14.8	61.4	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
	低群	26.1	4.1	13.9	49.8	2.4	0.4	0.4	2.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2位	高群	36.4	11.4	23.9	15.9	5.7	1.1	3.4	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0
	低群	33.9	13.9	23.3	21.2	3.3	1.2	0.4	0.8	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3位	高群	27.3	19.3	25.0	8.0	2.3	4.5	4.5	2.3	2.3	2.3	1.1	0.0	1.1	0.0
	低群	20.8	23.3	21.2	14.7	5.3	1.6	2.9	4.9	2.9	0.4	0.0	0.0	2.0	0.0

高群 n=88、低群 n=245

表4 大学生のトップスやボトムスの着用頻度

単位：人 (%)

a トップス	毎日	1週間に2、3回	1週間に1回	2週間に1回	1ヶ月に1回	1ヶ月に1回以下
高群 n=88	16 (18.2)	14 (15.9)	41 (46.6)	14 (15.9)	3 (3.4)	0 (0.0)
低群 n=245	25 (10.2)	77 (31.4)	103 (42.0)	33 (13.5)	4 (1.6)	3 (1.2)
b ボトムス	毎日	1週間に2、3回	1週間に1回	2週間に1回	1ヶ月に1回	1ヶ月に1回以下
高群 n=88	18 (20.5)	31 (35.2)	30 (34.1)	8 (9.1)	1 (1.1)	0 (0.0)
低群 n=245	33 (13.5)	125 (51.0)	70 (28.6)	13 (5.3)	3 (1.2)	1 (0.4)

一方で、衣服の素材や取扱表示、原産国を購入条件に挙げる者は非常に少なかった (表 3b)。先行研究<sup>4) 5)</sup>と同様に、本調査の大学生も購入条件には嗜好性や価格が優先され、着心地、耐久性、手入れ等を選択する割合は低かった。

**衣服の着用頻度**

特定のトップス (Tシャツ、パーカー、ワンピース等) やボトムス (ズボン、スカート、サロペット等) の着用頻度について表 4 に示した。トップスの着用に着目すると、

高群 (n=88) では「毎日」の者が 16 人 (18.2%)、「1週間に2、3回」は 14 人 (15.9%)であったが、低群 (n=245) では順に 25 人 (10.2%)、77 人 (31.4%) となり、特定の衣服を着用する頻度が高い傾向にあった (表 4a)。低群は衣服への関心が低いため (表 2a)、所有する衣服の枚数が高群に比べ少ないと予想される。このことから、衣生活領域の技術習得度が低い者は、同じ衣服を着まわす頻度が高い可能性があるとして唆された。



**購入金額**

次に、2022年1月～3月に衣服を購入した者の最高価格帯と最低価格帯を表5に示した。トップスは最大10枚、最低1枚購入しており、一人あたりの平均は高群(n=77)が3.99枚、低群(n=194)は3.49枚であった。トップスの最高価格帯として最も多く選択されたのは高群では1,000～2,999円と3,000～4,999円、低群は3,000～4,999円であった(表5a)。最低価格帯は高群ならびに低群ともに1,000～2,999円にそれぞれ集中した。次に、ボトムスは最大10本、最低1本で、一人あたりの平均は高群(n=63)2.35本、低群(n=151)2.26本であった。ボトムスの最高価格帯については高群1,000～2,999円、低群3,000～4,999円に、最低価格帯は高群ならびに低群ともに1,000～2,999円にそれぞれ集中した(表5b)。衣生活領域の技術習得度や衣服の種類に関わらず、大学生のファッション傾向について低価格のものが多く購入される傾向がみられた。

**unnecessary衣服の購入経験やその着用頻度**

unnecessary衣服の購入経験やその後の着用頻度について表6に示した。 unnecessary衣服の購入経験について2点(たまにある)又は1点(よくある)を選択した者は高群が計51人(58.0%)、低群は計162人(66.2%)となり、

低群の方が多かった(表6a)。また、 unnecessary衣服の購入経験がある者のうち、その着用頻度については1ヶ月に1回以下と回答した者は高群が42人(51.2%)、低群は106人(47.3%)とそれぞれ半数を占めた(表6b)。 unnecessary衣服の価格帯について尋ねていないが、前述のようにファストファッションは低価格のために手軽に購入でき、 unnecessaryなものに至り、技術習得度に関わらずそれを着用する機会が少ない者が多いと推察された。

**衣服の処分状況**

着用しなくなった衣服の処分方法や処分理由について、表7と表8にそれぞれ示した。高群(n=88)には「燃えるごみとして捨てる」を選択した者が3割以下と、低群(n=245、58.0%)よりも有意に(p<0.01)に少なかった(表7)。これは、低群の補修技術の能力が乏しく、かつ、衣服やファッションに対する関心が高群に比べて低いためであると推察された。高群ならびに低群ともに、一部の者は「資源ごみとして捨てる」、「リサイクルショップを利用する」、「販売店の衣類回収ボックスを利用する」、「作り変えて再利用する」など、何らかの形でリサイクルに寄与していた。鷺津ら(2016)<sup>12)</sup>は、着用しなくなった製品の処分方法について、大学生では「ごみとして廃棄(37.2%)」が、その保護者では「地域の資源回収

表5 大学生の衣服購入時の最高価格帯と最低価格帯

単位：人(%)

	999円以下	1,000～2,999円	3,000～4,999円	5,000～6,999円	7,000～8,999円	9,000～10,999円	11,000～12,999円	13,000円以上
<b>a トップス最高</b>								
高群 n=77	1 (1.3)	21 (27.3)	21 (27.3)	19 (24.7)	4 (5.2)	5 (6.5)	0 (0.0)	6 (7.8)
低群 n=194	4 (2.1)	43 (22.2)	48 (24.7)	40 (20.6)	21 (10.8)	6 (3.1)	11 (5.7)	21 (10.8)
<b>トップス最低</b>								
高群 n=77	19 (24.7)	49 (63.6)	6 (7.8)	2 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)
低群 n=194	31 (16.0)	89 (45.9)	35 (18.0)	21 (10.8)	9 (4.6)	2 (1.0)	2 (1.0)	5 (2.6)
<b>b ボトムス最高</b>								
高群 n=63	2 (3.2)	24 (38.1)	16 (25.4)	14 (22.2)	3 (4.8)	1 (1.6)	1 (1.6)	2 (3.2)
低群 n=151	2 (1.3)	42 (27.8)	45 (29.8)	31 (20.5)	11 (7.3)	5 (3.3)	6 (4.0)	9 (6.0)
<b>ボトムス最低</b>								
高群 n=63	6 (9.5)	38 (60.3)	13 (20.6)	3 (4.8)	1 (1.6)	1 (1.6)	0 (0.0)	1 (1.6)
低群 n=151	12 (7.9)	69 (45.7)	34 (22.5)	18 (11.9)	11 (7.3)	2 (1.3)	3 (2.0)	2 (1.3)

表6 大学生の unnecessary衣服の購入経験とその着用頻度

単位：人(%)

<b>a 購入経験</b>	4点：全くない	3点：あまりない	2点：たまにある	1点：よくある		
高群 n=88	6 (6.8)	31 (35.2)	43 (48.9)	8 (9.1)		
低群 n=245	21 (8.6)	62 (25.3)	141 (57.6)	21 (8.6)		
<b>b 着用頻度</b>	毎日	1週間に2、3回	1週間に1回	2週間に1回	1ヶ月に1回	1ヶ月に1回以下
高群 n=82	0 (0.0)	1 (1.2)	2 (2.4)	13 (15.9)	24 (29.3)	42 (51.2)
低群 n=224	2 (0.9)	7 (3.1)	9 (4.0)	27 (12.1)	73 (32.6)	106 (47.3)

表 7 大学生の衣服の処分方法 (複数回答)

	高群 n=88	低群 n=245	合計 n=333
捨てずにとっておく**	22 (25.0)	32 (13.1)	54 (16.2)
燃えるごみとして捨てる**	25 (28.4)	142 (58.0)	167 (50.2)
資源ごみとして捨てる*	11 (12.5)	56 (22.9)	67 (20.1)
家族や知人にあげる	30 (34.1)	97 (39.6)	127 (38.1)
作り変えて再利用する	6 (6.8)	10 (4.1)	16 (4.8)
寄付する	5 (5.7)	15 (6.1)	20 (6.0)
販売店の衣類回収ボックスを利用する*	4 (4.5)	32 (13.1)	36 (10.8)
不用品回収業者へ提供する	3 (3.4)	8 (3.3)	11 (3.3)
リサイクルショップを利用する	11 (12.5)	35 (14.3)	46 (13.8)
ネットオークション・フリマアプリを利用する	5 (5.7)	20 (8.2)	25 (7.5)
その他	0 (0.0)	5 (2.0)	5 (1.5)

\* :  $p < 0.05$ , \*\* :  $p < 0.01$

表 8 大学生の衣服の処分理由 (複数回答)

	高群 n=88	低群 n=245	合計 n=333
破れた**	12 (13.6)	120 (49.0)	132 (39.6)
チャックが壊れた**	14 (15.9)	79 (32.2)	93 (27.9)
汚れが落ちなかった**	14 (15.9)	74 (30.2)	88 (26.4)
新しいものを買った	11 (12.5)	51 (20.8)	62 (18.6)
誰かからもらった	3 (3.4)	4 (1.6)	7 (2.1)
流行が終わった	9 (10.2)	24 (9.8)	33 (9.9)
肌に合わなかった	5 (5.7)	17 (6.9)	22 (6.6)
好みが変わった	22 (25.0)	84 (34.3)	106 (31.8)
サイズが合わなかった	14 (15.9)	80 (32.7)	94 (28.2)
体形が変わった**	12 (13.6)	50 (20.4)	62 (18.6)
友達とデザインが被った	0 (0.0)	5 (2.0)	5 (1.5)
何年も着ていない**	34 (38.6)	138 (56.3)	172 (51.7)
引っ越し	2 (2.3)	19 (7.8)	21 (6.3)
その他	1 (1.1)	2 (0.8)	3 (0.9)

\*\* :  $p < 0.01$

システムを利用する (38.3%)」がそれぞれ最も多かったと報告しており、大学生は親世代よりも衣服の処分に抵抗がないことが予想される。

衣服の処分理由について「何年も着ていない」を挙げた者が最も多く存在し、高群 (n=88) では 34 人 (38.6%)、低群 (n=245) では 138 人 (56.3%) となり、低群の方が有意に ( $p < 0.01$ ) 多かった (表 8)。また、技術習得度の低い低群では「破れた」120 人 (49.0%)、「チャックが壊れた」79 人 (32.2%)、「汚れが落ちなかった」74 人 (30.2%) となり、これらは高群よりも有意に ( $p < 0.01$ ) 多かった。トップスやボトムスの最低価格帯が 2,999 円以下の者に注目すると (表 5)、「破れた」を選んだ者は低群では約 40% を占めた。本調査ではファストファッションの衣服の処分理由を問う際、その期間を限定しておらず、実際に購入したファストファッションが上記理由から処分されたかどうかは不明瞭であるが、大学生の場合、安価なファストファッションが直ぐに破れてしまい処分に至ってし

まう傾向があることが示唆された。

大枝ら (2013) <sup>13)</sup> は環境配慮型の大学生はファストファッションを使い捨てとは考えず、なるべく環境負荷がかからないように衣服の廃棄について心配りをしていると報告している。本調査では家庭科衣生活領域における技能技術の習得が低い者ほど、衣服の適切な管理や補修、リメイクができないために、ファストファッションの購入につながるという悪循環が生じていると示唆された。一着を大切に長く着用し続け、また、愛着のある衣服を補修しながら次世代に受け継いでいくことを心掛けることは日常生活において丁寧な暮らしにつながっていく。家庭科の学びを日常生活で実践し続け、衣服をはじめとした生活基盤を自ら支え、ひとが自然環境と永く共存していくことが大切である。今後は、衣生活領域における技能技術の向上のために働きかけ、若者の衣服消費行動にどのような変容が見られるかを調査したい。

#### 4. 結語

大学生 334 人に衣服消費行動に関する Web アンケート調査を行ったところ、家庭科衣生活領域の技術習得度が低い大学生が約 65% を占めた。この低群は破れた衣服の補修や生地素材による使い分けができないため、低価格帯のファストファッションの消費が著しく、かつ、サステイナブルファッションへの関心は低くなったと推察された。今後は家庭科の既習事項を振り返り、日頃の衣生活で生かす機会を設け、大学生の技能技術の定着や環境配慮への意識につなげていきたい。

#### 謝辞

本研究の遂行にあたり、アンケート調査にご協力いただいた大学生の皆様にご心より感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 経済産業省 製造産業局生活製品課：繊維産業の課題と経済産業省の取組 (2019)  
[https://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/mono/fiber/pdf/190116seni\\_kadai\\_torikumi.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/pdf/190116seni_kadai_torikumi.pdf)  
(アクセス日：2022年8月17日)
- 2) 環境省 大臣官房総合政策課：令和2年度ファッションと環境に関する調査結果 (2020)  
[https://www.env.go.jp/policy/pdf/st\\_fashion\\_and\\_environment\\_r2gaiyo.pdf](https://www.env.go.jp/policy/pdf/st_fashion_and_environment_r2gaiyo.pdf)  
(アクセス日：2022年8月17日)
- 3) 環境省：廃棄物・リサイクル対策  
<https://www.env.go.jp/recycle/recycling/>  
(アクセス日：2022年8月17日)
- 4) 木下教子：大学生の被服購入時の実態および衣生活領域の理解度、北翔大学教育文化学部研究紀要 3、pp.85-92 (2018)
- 5) 前田亜紀子・野口 愛：衣服選択における意識と実態に関する調査研究、群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編 49、pp.193-198 (2014)
- 6) 安永明智・野口京子：ファッションへの関心と着装行動に関する基礎的調査研究 ―性別、年齢、主観的経済状況、性格による差の検討―、ファッションビジネス学会論文集 17、pp.129-137 (2012)
- 7) 速水多佳子・黒光貴峰：大学生の家庭科における調理、被服製作の知識・技能の習得状況にみる課題、日本家庭科教育学会誌 57 (1)、pp.14-21 (2014)
- 8) 柏崎真理子・前田雄也・日景弥生：小・中・大学生を対象とした被服製作用語の知識の実態、弘前大学教育学部紀要 101、pp.109-114 (2009)
- 9) 筒井和美・杉浦美音・田岡奈々：魚介類を用いた煮物料理における繰り返し調理作業の教育効果、食生活研究 42 (1)、pp.31-42 (2021)
- 10) 筒井和美・高畑晶子：遠隔授業の調理実習における繰り返し調理作業の効果、食生活研究 42 (5)、pp.318-327 (2022)
- 11) 筒井和美・武 文子・青木香保里：家庭基礎の学習と高校生の意識変容との関係、愛知教育大学家政教育講座研究紀要 50、pp.12-23 (2021)
- 12) 鷺津かの子・水嶋丸美・安藤文子・宮本教雄・伊藤きよ子：ファストファッション製品の使用状況と着用後の処分方法に関する調査、繊維製品消費科学 57 (5)、pp.385-390 (2016)
- 13) 大枝近子・佐藤悦子・高岡朋子：若者のファストファッション意識に関する調査、日本家政学会誌 64 (10)、pp.645-653 (2013)

【連絡先】 筒井和美 TEL：0566-26-2111

# **Relationship between Skills Acquisition Level of Clothing Life in Home Economics and Behavior of Fast Fashion Consumption for Undergraduate Students**

Kazumi TSUTSUI<sup>1</sup>, Mei YOKOKAWA<sup>2</sup>, Yuka AOYAMA<sup>2</sup>, Mimo ITO<sup>2</sup>,  
Etsuko HARADA<sup>1</sup>, and Shoko KATO<sup>1</sup>

<sup>1</sup>*Department of Home Economics Education, Aichi University of Education*

<sup>2</sup>*Major in Home Economics, Faculty of Education, Aichi University of Education*

## **ABSTRACT**

A questionnaire survey on the behavior of fast fashion consumption was administered to 334 undergraduate students. Regarding their skill acquisition level in learning about the clothing lifecycle, many could not master preliminaries, such as how to care for dirty clothes and how to use clothing materials. Those with lower skill acquisition were significantly less interested in sustainable fashion, tending to dispose of damaged clothing as burnable garbage without attempting any repair. This behavior was expected to lead to students consuming cheap fast fashion. Students need opportunities to reflect on home economics learning, establish skills and techniques, and review their clothing habits.

## **Keywords**

home economics, clothing life, undergraduate students, skills acquisition, fast fashion